

特に20歳代以下の若い人たちに、政治や選挙に対する関心を高め選挙を身近なものに感じていただけるように、各種選挙における投票立会人候補者の公募を行っています。

さらには、町の公式ライオンに登録されている町民に向けては、プッシュ式の情報発信を行っていきます。

今般の佐賀県知事選挙についても県の選挙管理委員会から、投票率向上に向けた各種啓発等についての協力依頼があつていきます。

投票率向上に向けた取り組みについては、総務省の示す事例や他の市町村の取り組みも参考にしながら、研究を重ねてより効果的な啓発活動に努めていきたいと考えています。

過去5回の町長・町議会議員選挙の投票率は、平成15年は町議会議員選挙のみで84・46%、平成19年は町長・町議会議員選挙で82・41%、平成23年は町議会議員選挙のみで74・77%、平

成27年は町長・町議会議員選挙で81・05%、平成31年は町議会議員選挙のみで71・30%となっています。

大町ひじり学園の環境整備について

三根 和之

議員 コロナ等の感染症流行に伴い、大町ひじり学園の各教室においてどんな換気対策をとられているのか教育長にお聞きします。

①各教室には、二酸化炭素濃度測定器を設置していますか。

②花粉症やほこりなどのアレルギー対応やウイルス感染症の対応はどのようにされていますか。

③文部科学省から感染症対策について県や市町村に通知されている高機能換気設備(空気清浄機などの機器)の導入についてはどのように考えていますか。

教育長 ①二酸化炭素濃度

測定器の設置については、昨年6月に104台がひじり学園に配備されています。

配備された104台は校舎内49か所のすべての部屋に部屋面積に応じた必要数を設置しています。通常の各教室には前後2か所に配置しています。

機器については、二酸化炭素の濃度が1000ppm以上になると黄色、1500ppm以上から赤色で表示される仕組みになっています。

文部科学省が示している学校環境衛生基準では1500ppm以下とされていますが、本町では1000ppm以上になるとランプの色が変わる性能の機器を設置することで、より基準値を高く設定して換気をこまめに行うようにしています。

授業などの際は、教職員が二酸化炭素の濃度の確認を行って、休み時間等は児童生徒に対し、黄色に変わった時は窓を開けるよう指導を行っています。

②アレルギーについては、毎年4月に各家庭から

提出いただいている家庭調査表や保健調査表で児童生徒の実態を把握しています。食物アレルギーは命に係

わることから町独自のマニュアルやエビペンなどの機器の使用方法など、職員研修も含め対策をとっています。

ウイルス対策については校医と相談しながら必要な対応を次のように行っています。

学校内での感染拡大防止のために、まずは学校へ持ち込ませないこと。また、学校が感染拡大の要因とならないための対策が必要なことから、保護者に対して「同居の家庭に発熱などの症状がある場合は登校しない」「体調不良の場合は、必ず病院受診を行い、医師の指示に従うこと」など働きかけを適時行っており定着しているところです。

また、児童生徒、教職員の登校時には、顔認証検温カメラでの体温チェック及び手指消毒と併せて、建物内でのマスク着用を指導し

ています。教室内では児童生徒の間隔を開け、常時、運動場側と廊下側の窓を開け、換気を行っています。

給食の際は、パーテーションを設置し、黙食を実践しており、児童生徒の下校後は、スワールサポートスタッフによる消毒を行っています。

③大町ひじり学園の教室については、校舎建築の際に通常の換気扇ではなく高機能換気設備(全熱交換器機)を設置しています。この設備により、汚れた空気を排出し、きれいな空気を取り入れています。

今後のウイルス対策については、これまでの国内での実例を含め「これを行えば完全な感染対策」というのは、ないと考えています。学校が現在、実施しているポイントを絞った、効果的・効率的な感染対策として行っている「入口」段階での対策をはじめ、校内から拡大要因を作らないための「感染源や感染経路を断つ